

2023 年度

大学生の力を活用した集落復興支援事業 報告書

「大内の風景を守りたい」プロジェクト

千葉大学 地域計画学 齋藤研究室

目次

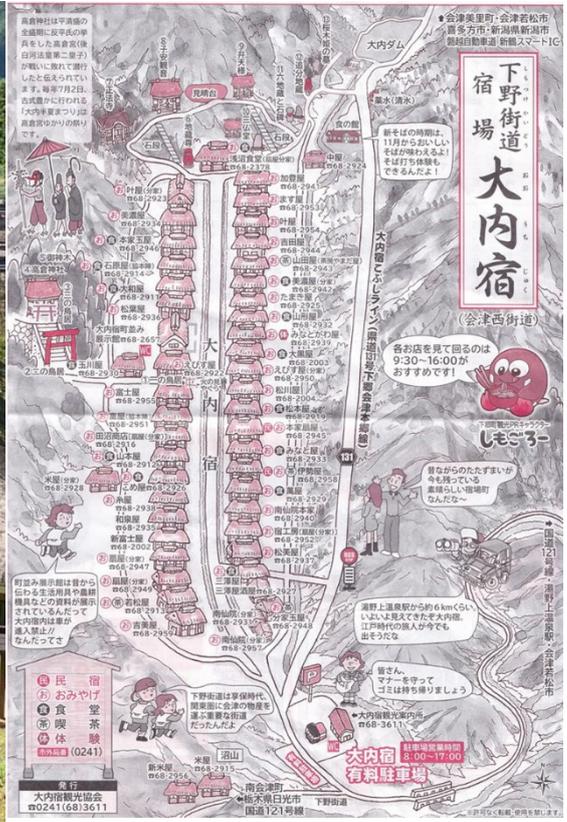
1.大内宿の概要

2.地域づくりと実態調査の内容

3.調査結果

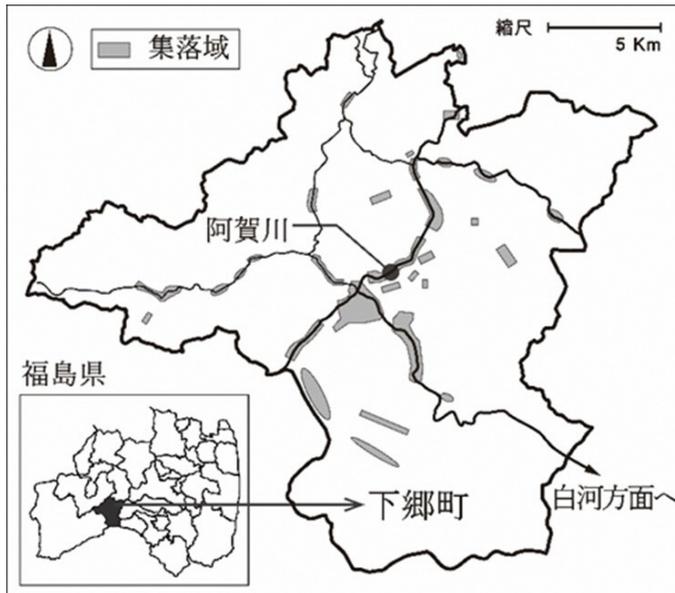
4.今後の展望

1.大内宿の概要と課題

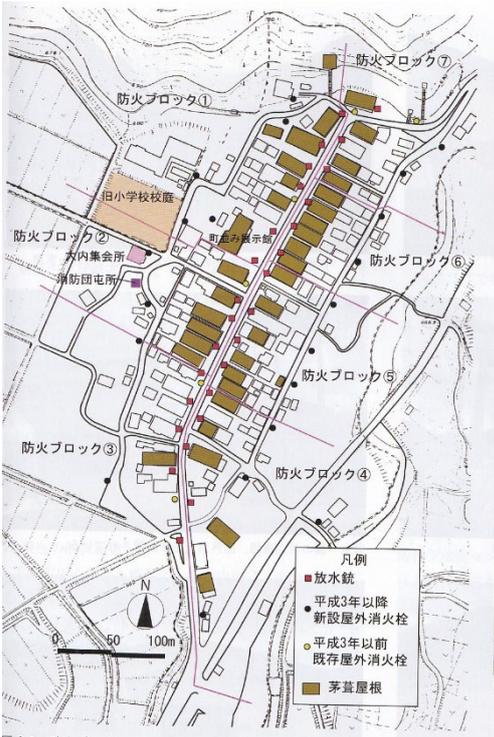


大内地区の遠景

大内地区の観光案内地図



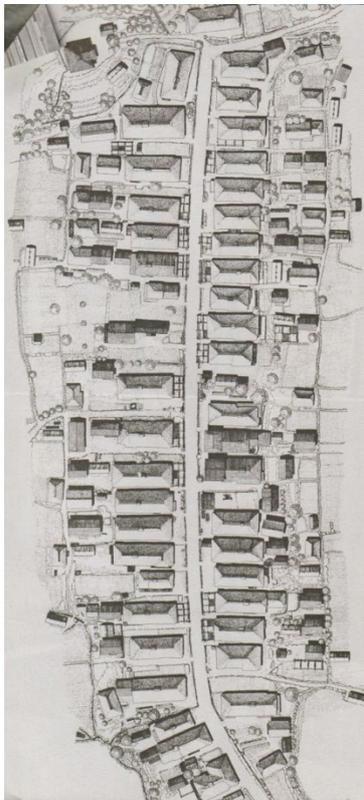
大内地区の位置



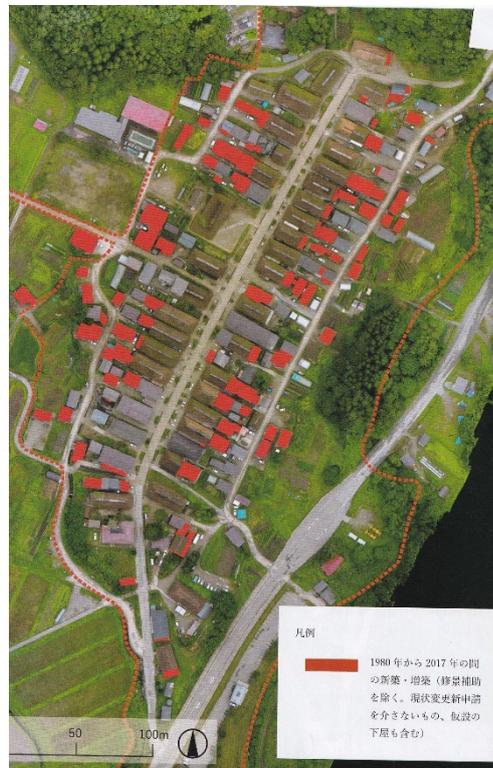
資料1 茅葺民家の位置図



資料2 指定物件位置図



資料3 1960年代の屋根伏せ図



資料4 現状変更の実績

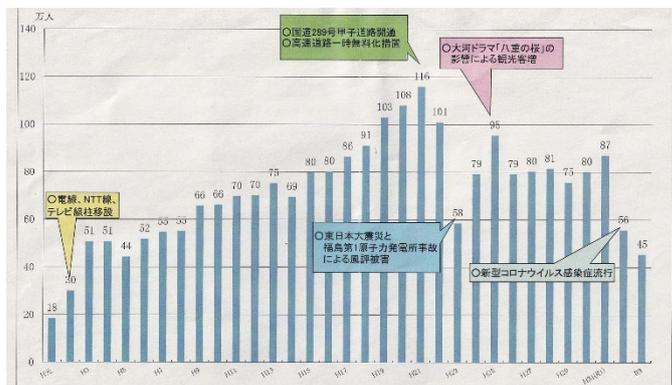


資料5 建物用途図



図4-10 集落周辺の農地山林に関する取り組みと課題（「北大ドローン撮影+Pix4d背景」画像をベースに作成）

資料6 農林地景観の状況



資料7 近年の観光客数の推移（下郷町資料）

大内地区は福島県でも有数の観光地であり、文化庁の重要伝統的建造物群保存地区にも指定されている。資料1-6は、伝建報告書（北海道大学編）より抜粋したものである。観光地としての商業的成功は伝建地区の中でも特筆す

べきものであり、空き家や建物老朽化という点では、まだ課題が顕在化していない。指定物件や修復物件の重大な現状変更の違反も他地域に比べて軽微である。しかしながら、後背農地の粗放化が目立つようになってきた。商業に注力するあまり、農業・農地管理に対する関心と余力がなくなってきたことが課題である。

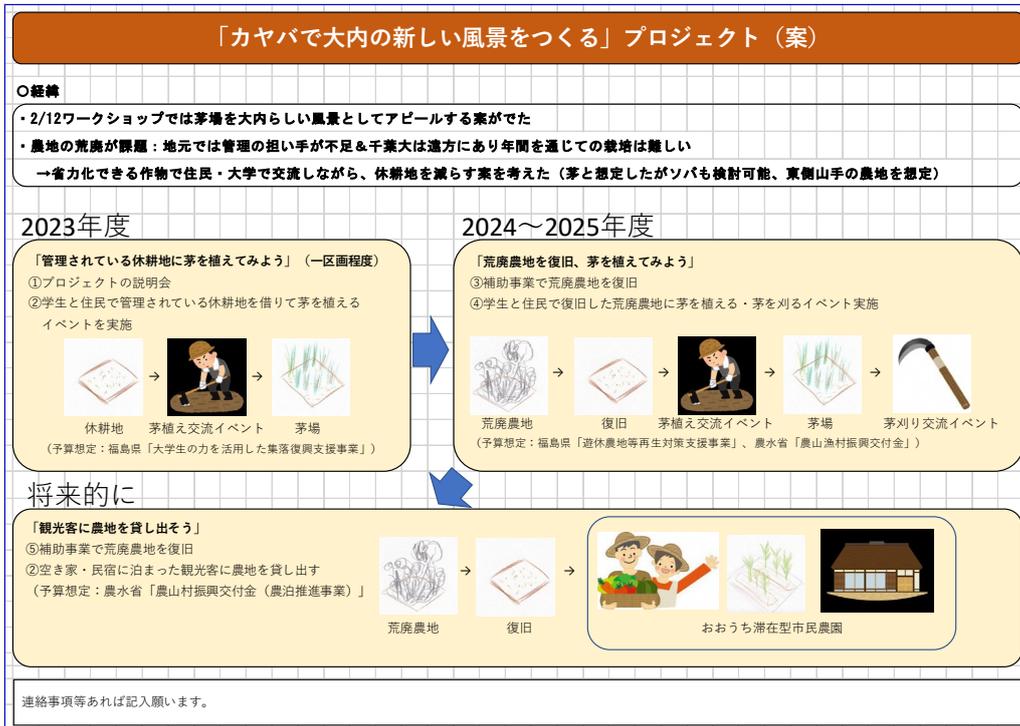
2. 地域づくりと実態調査の内容

2021年度から齋藤教授は下郷町で空き家調査、転出者調査を町と協力して行っていた。そこで、2022年7月に、長野県東御市海野宿のまちづくりに関わる齋藤教授が東御市職員を大内宿に視察として引率し、大内の住民と懇意になったことが契機である。2022年9月にはゼミ合宿を開催し、学生からみた大内宿の魅力・課題に関するワークショップを行い、住民や役場職員に発表を行った。その結果、農地の荒廃が課題であることが明らかになった。2022年11月には研究室有志で第一回目の農地調査を敢行した。さらに、2023年2月には地域の方向性に関するワークショップを住民と共に行った。2023年5月には農地再生の提案を研究室から地区住民に行い、地元青年会がカウンターパートとなり協働で農地再生を進めていくことにした。2023年7月には茅場の整備とソバの種まきを学生と地元青年会で行い、さらに農地調査の2回目を行った。

2023年10月にはソバの収穫と唐箕をつかった選別作業、そば打ち体験、交流会を行った。



2023年2月住民とのワークショップ



2023年5月の大学の提案

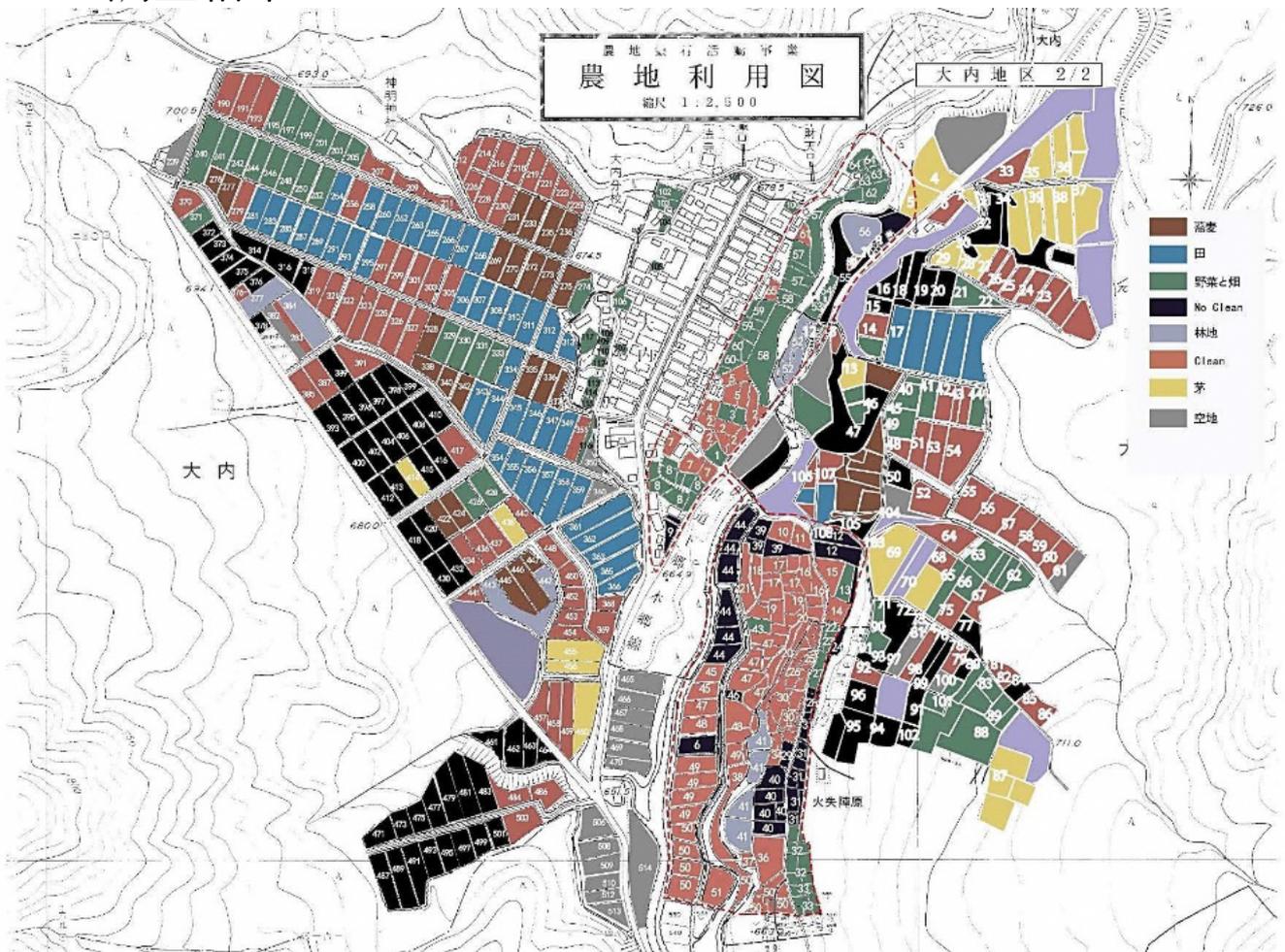


2023年7月の活動の様子



2023年10月の活動の様子

3.調査結果



農地調査と住民意識調査の結果を以下にまとめる（図の凡例では管理された休耕地を clean,管理が行われていない休耕地を no clean と表示している）。

- ① 全般的に休耕地が多いが、特に東側農地に多い
- ② 茅場が大きな役割果たす（茅の7割弱は購入）
- ③ 放棄地は集中的に発生
- ④新規イベントや休耕地の貸与・売却には容認派が多いが、
- ⑤建物「売らない、貸さない、壊さない」は、賛否半々

⑥農作業を前向きに捉える方、大内への愛着を感じる方はそれぞれ半数

だが、山や農地を大内の魅力と感じるは多い

結論として、よそ者の建物利用・居住には意見が分かれるが、地域外の農地利用や交流イベントなど現状を改革してもよいと考える人が多い。

したがって、大学と地域で協働で農地再生を進めていくことにそこまでの抵抗感はなく、むしろ今後の建物活用など地域の開放性を高める効果が期待できることが分かった。

4. 今後の展望

今後については、本年度の実態調査と活動を踏まえつつ、再度、多角的に地域の方向性について考えていくということになり、2024年度前半は話し合いを中心に、後半は活動中心にと考えている。

以下は今後の話し合いに向けたメモである。

1. 大きな目標

地域の方向性を考える

「次世代としてどう考え、どう動くか」

2. 具体的課題：将来に向けて高齢化、空き家化・人口減少が心配

解 i) 住み続ける、子どもたちが帰ってくる地区

解 ii) ヨソモノを受け入れる

3. 話し合いの目標は？

テーマ①「観光の活性化を考える」

経済的持続・向上に向けた現状把握（商売をつづけていくには）

（提案例：特産品、展望スポットルート、パンフをつくるなど）

テーマ②「地区の暮らしを考える」

住み続けたい楽しい地区にするための現状把握（地区の良いところ、課題）

負担減、閉鎖性、魅力を子に伝える

（提案例：子ども里山探検）

テーマ③「建物・農地の保存を考える」

伝建・農地を保存していく現状把握（建物、農地を維持するには）

「売らない、貸さない、壊さない」の見直し（よそ者の受入）

建物保存に関する課題

農地保全に関する課題

（提案例.ルールの見直し案、農地保全のプロジェクト）

4. 進め方は

*まず環境点検w s（現状分析）するか、しないか

*2月は話し合いのやり方を決める、もしくは具体的話し合いに入るか

*①②③のどれかに絞るか、①、②、③班に分かれて、そのあとに絞るか（並列的にやるか）

農地再生にこだわらず、持続可能な地域づくりに関しての話し合いを進めていくつもりである。

最後に、大内地区の皆様方、青年会の皆様方、下郷町役場の皆様方には、千葉大学とのご縁を頂き、また活動へのご協力とご理解を頂き感謝申し上げます。

また県地域振興課、(株)社会システムの皆様にも本事業についてご指導、ご協力頂き感謝申し上げます。

千葉県松戸市松戸 648

千葉大学 園芸学部

地域計画学研究室

047-308-8971